「ただいま」が言いたくて

「ただいま」が言いたくて

芳流（kaoru）

https://www.pixiv.net/novel/show.php?id=19864622

ダイの大冒険, ヒュンマ, ヒュンケル, マァム, 原作終了後

相変わらずの結婚後のヒュンマ。ネイル村です。

カヅキさんuser/1688436とお話してて、アイデアをいただき、急に思い立って即興で書いてみたのですが（ワンドロどころかたぶん30分くらい…）、ありがたいことに、半日後には、カヅキさんからイメージイラストを頂いてしまいました～❤❤❤お仕事早っ!!
併せて掲載させて頂いております。ありがとうございました～❤

全く警戒心のないヒュンケルは、うちでは珍しいかなあと思います。

Table of Contents

「ただいま」が言いたくて

　自宅に戻ったマァムは、そっと寝室のドアを開けた。
　時刻はすでに日付が変わろうとする頃になっていた。
　この日、マァムは、レイラとともに、夕方に産気づいた妊婦の元を訪れていた。だが、初産だった若い妊婦の出産は、思ったよりも時間がかかった。すべてが終わってマァムが自宅に戻った頃には、こんな時刻になっていた。
—寝ちゃってるわよね・・・。
　マァムは、音を立てないように、そっと寝室に滑り込んだ。
　ヒュンケルは、マァムの帰りが遅いときには、起きて待っていることが多かった。
　だが、彼にも自分の仕事がある。
　マァムの帰宅が、翌日の仕事に支障が出そうな時刻になるときには、ヒュンケルが先に寝ていることも珍しくはなかった。
　案の定、この日、寝室の灯りは落とされており、ベッドを見ると、ヒュンケルが既に眠りに落ちていた。
　マァムは、ベッドの脇に膝をつくと、眠っているヒュンケルを眺めた。彼は、わずかに顔を横に向け、マァムの方を向いた格好で、眠っていた。
—綺麗だな・・・。
　マァムは、ヒュンケルの寝顔を見つめているうちに、いつの間にか見惚れていた。
　そして、彼女は、そっと手を伸ばすと、ヒュンケルの髪を撫でた。思ったよりも柔らかい感触が手に伝わる。
　マァムは、愛おしさにたまらなくなり、そっと、彼の額に唇を寄せた。
　そのときだった。
「マァム・・・？」
　小さく彼女を呼ぶ声があった。
　マァムは、慌ててヒュンケルに詫びた。
「ごめんなさい、起こしちゃった？」

「・・・いや・・・。」
　意味のあるのかないのかわからない言葉をヒュンケルがつぶやく。
　そして、彼は、寝起きとは思えない強い力で、彼女の腕をつかむと、一気に引き寄せた。
「きゃあっ！」
　バランスを崩したマァムは、小さく悲鳴を上げた。
　ヒュンケルの上に倒れこむ。
　気が付くと、マァムは、ヒュンケルの上に倒れ伏していた。彼女の肩に、ヒュンケルの腕が回され、強く抱きしめられていた。
　耳元に、ヒュンケルの声が響く。
「おかえり・・・。」
「・・・ヒュンケル？」
　だが、マァムが彼の名を呼ぶと、返ってきたのは、規則正しい寝息だった。
　マァムは、呟くように尋ねた。
「ねぼけてるの・・・？」
　ヒュンケルの腕は、マァムの肩に回されたままになっており、強く引き寄せられていたものの、耳に届くのは寝息ばかりだった。
　マァムは苦笑した。
　そして、彼女の方からも、彼の背に腕を回した。温かい感触が伝わってくる。
「ただいま、ヒュンケル。」
　そう囁くと、マァムは、着替えることもせず、そのまま、眠りの中へと落ちていった。

イラスト：カヅキ様（https://www.pixiv.net/users/1688436）